

新人職員ら実習 収穫の喜び実感

日本農業新聞掲載日：令和7年11月20日（木）

J A 東京みなみは11月上旬、日野市にあるJAの小林和男組合長の畠で新入職員収穫祭を開いた。2025年度新採用職員ら5人が小林和男組合長の指導の下、サトイモと根ショウガを収穫した。

新入職員は毎年5月、管内特産の梨の授粉作業を行っているが、昨年より梨火傷病の影響で花粉を無駄にできないため実習内容の変更を検討。小林和男組合長がこの収穫祭を企画し、今年で2回目の開催となった。

サトイモは葉と葉柄を切り落とし、三本鍬で株の周囲の土を掘り起こしてサトイモを傷つけないよう慎重に収穫。子芋、孫芋、ひ孫芋を親芋から手で取り外し、持ち帰った。

サトイモを収穫した新入職員の芦川樹さん（22）は「サトイモを掘るのは力仕事かと思っていたが、こつがあり難しかった。農作業の大変さと収穫の喜びを実感した」と話した。



サトイモを収穫する芦川樹さんと小林和男組合長（写真右）（東京都日野市で）